

Vivid You & I

2003年4月
Vol.12

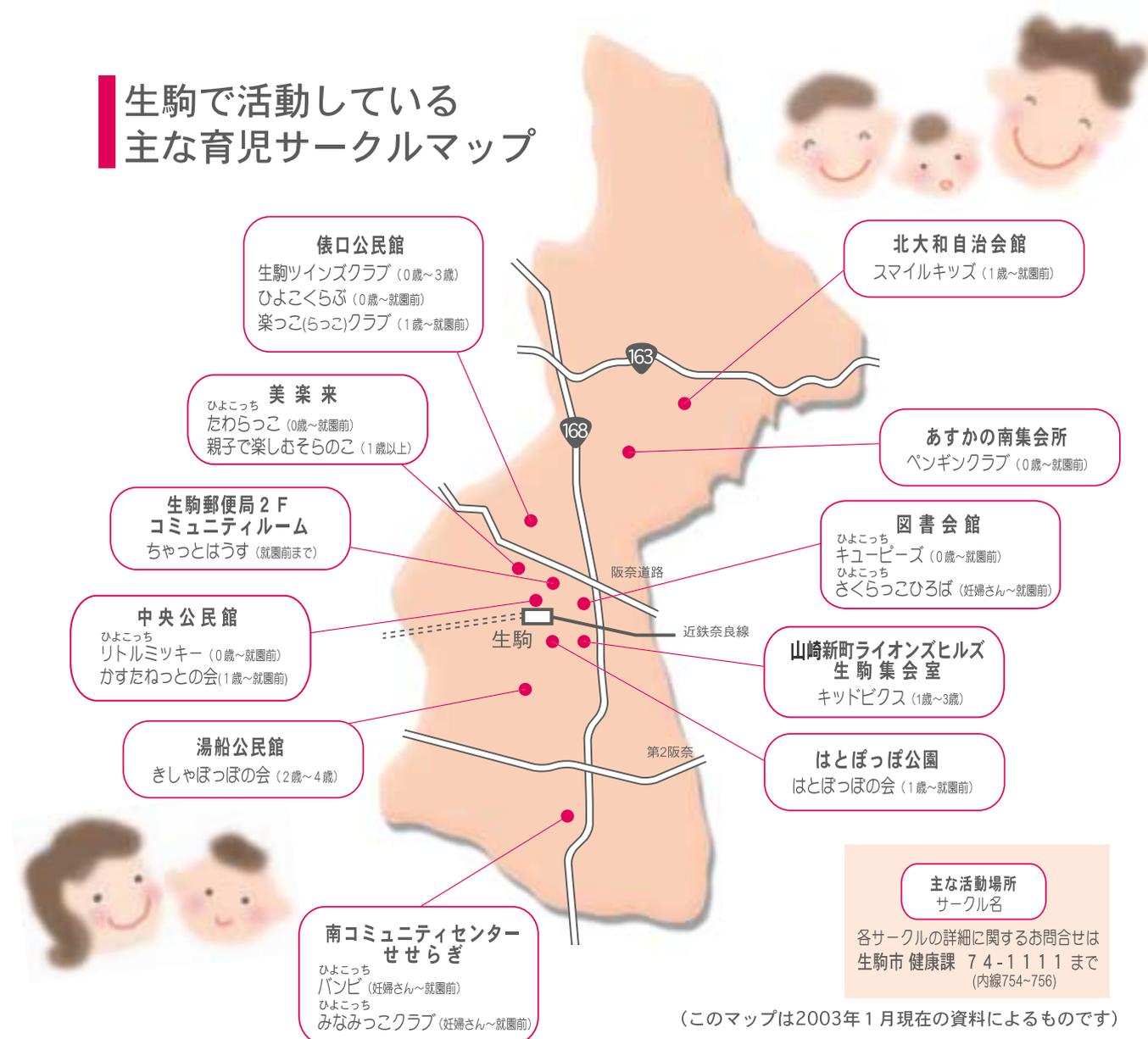
「Vivid」はあざやかな、生き生きとした、活発な、はつらつとしたという意味の英語です。「You & I」は本市の女性行動計画にも用いたとおり、女性と男性のパートナーシップを意味する言葉

です。「女性も男性もいきいきと生きることができる」という、男女共同参画社会の理念を明確に表わす言葉として、愛称に決めました。

子育て…ひとりで悩んでいませんか？

子育ては自分育て。地域のなかまと一緒にゆっくり育っていきませんか。

生駒で活動している 主な育児サークルマップ



主な内容	★ 子育ては自分育て ~みんなで一緒に育ちましょ~ 2
	★ おもいきり子育て 我が家の場合 3 ★ 地域に上手くとけ込んで・・・ 4~5
	★ 日本女性会議「2002あおもり」報告 ... 6~7 ★ 女性センターからのインフォメーション... 8

子育ては自分育て

～ みんなで一緒に育ちましょ ～

厚生労働省が発表した平成13年の人口動態統計の合計特殊出生率(女性が一生に産む子どもの数)は、全国平均1.33(奈良県では1.22で全国43番目)と過去最低を記録しました。このような少子化の背景には、晩婚化や未婚率の上昇などの傾向があげられますが、注目すべきは結婚しても子どもを産まない人が増えているということです。なぜ、子どもを「産まない」ようになったのでしょうか？

理由としては育児休業制度活用の困難さ、高額な出産費や教育費など社会的な問題が多々あるのも事実ですが、その一方で子育てそのものに対して不安を抱いている人が意外に多いように思われます。

不安なのはみんな同じ。でも、それを上手に乗り越えながら子育てを楽しんでいるおとうさん・おかあさんもたくさんいます。不安や苦しさを共有しつつ一緒に子育てを楽しめる仲間をつくったり、頼れる第三者を見つけたり・・・周囲には身近でステキなお手本がいっぱい。

さ、一人で考え込んでいないで、みんなで一緒に育ちましょ！

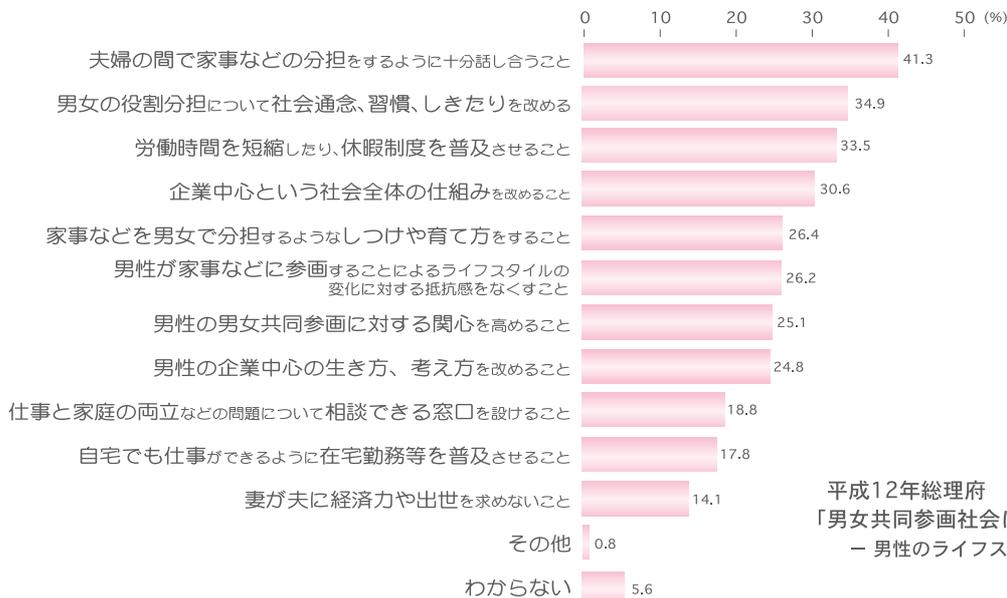
育児は毎日待ったなし 皆さんはどうしていますか？

育児で何より大切なのは「協力」です。働く女性の中には、夫の協力が得られず自分の自由な時間もなく必死で家事・育児をこなしている人がいます。また、専業主婦に対しては「かわいい子どもと一日中いっしょにいられて良いナ」と多くの方が思っているのではないのでしょうか。

しかしいずれにしても24時間子どもと離れることができない、子育ての責任が自分ひとりにあるという状況の中で、もっとも必要なのは男性の育児参画です。日本の男性の育児休業取得率は現在0.42%(5000人に2人/1999年度調べ)で欧米に比べると微々たる現状です。

たとえ長期休暇は無理でも勇気を出して一週間会社を休み妻の手を借りずに育児に専念してみてください。小さな命を育てることの大切さと楽しさ・・・なにもにも代えがたい新しい発見を身にしみて感じるはずですよ。また女性も、育児を自分だけで背負いこまないでSOSを出しましょう。夫や両親に「しんどい」「助けて」「ほんの少しでも自由な時間が欲しい」と言うことは決して母親失格でも、わがままでもありません。

男性が家事、子育てや教育などに参画するために必要なこと



平成12年総理府
「男女共同参画社会に関する世論調査
－ 男性のライフスタイルを中心に －」より

おもいつきり子育て 我が家の場合

子育ては100人いれば100とおり。みんな悩んで苦しんで・・・
そんな心あたたまる悪戦苦闘ぶりを市内在住のおとうさん・おかあさんに聞いてみました。



***共働きさん**
小5と3歳の男の子
をつれて家族でグル
メ三昧!?でっかく頼
れるホットなパパ

パパに
聞きました

自分自身の再発見

私自身、母が子育て+家事、父は仕事というのが当たり前の家庭で育ったので、自分が家庭を持ってからは驚きと共に楽しい経験ができています。はじめての子育ての時は妻に調教されつつも(笑)夫婦一緒に試行錯誤しながら頑張ったもんですよ。

子育てに参加することで、ある意味自分の人生を再度経験できる...そんな気がしています。それに心の底から子ども

たちを愛するという気持ちは子育てを始めてはじめて理解できたことです。

がんばったのは・・・?

2人目が生まれる時は8年ぶりということもあって張り切っていたのに仕事に忙殺されホテル暮らし。妻は4カ月目から仕事復帰。それを救ったのは他でもないお兄ちゃん。積極的に父親代わりを努めてくれたおかげで夫婦仲も壊れず?にやってきました。お兄ちゃんに感謝! あ、もちろん妻にもネ。

ママに
聞きました

子育てに後悔したくない

けんかした時なんかもう大変! あっちからこっちからでいちいち聞いてられないのよ~(笑)でも、それがかえっていいのかも。もし、子どもたちがいなかったらきっと‘もぬけのから’みたいになってるでしょうね。

子どもが子どもでいるのは10年だと思ってる。その間に一生懸命一人ひとりの子どもたちとつきあいたい。うんと抱きしめて思いっきり「愛されてる」って感

じてほしいな。

愛情ってかけ算!?

以前はね、どうやって子どもたちに愛を分ければいいんだろうって思ってたんですよ。でも、違うのね。愛情って6人いれば自然に6倍になるみたい。

夫へ

夫はとても子ども好きで、子どもたちといっぱい遊んでくれます。時には山のような洗濯物のかたづけを手伝ってくれることも。いつまでも健康でいてほしい。そして一緒に全員の子孫の顔を見ようね。



***自営業さん**
小6から1歳まで男
女6人の子育てが楽
しくてしょうがない
という肝っ玉ママ



***専業主婦さん**
小1の女の子と3歳
の男の子をあたたく
包み込むしっかり
ママ

ママに
聞きました

子育てを楽しむ友だちの輪

共働き世帯で育った私。自分の子には寂しい思いをさせまいと出産と同時に退職しました。でも最初は近所に友だちもいなくて、いわゆる公園デビューも自分のためだったかも(笑)・・・しだいに仲間がどんどん増えていき、何かあったら子どもを預けて助け合っていました。そう、この頃からかな、子育てに他人が関わるっていうのも大事なことなんだなって思うようになったのは。

今はポジティブな思考の時!

娘の成長と共に‘今の日常’に「このままでいいのかな?」なーんて。何かを始めた! 働きたい! そのための情報がほしくて今は様々なセミナーを受講したりしています。子どもと夫と自分とのバランスを大切にしつつできる事を求めています。

夫へ

夫は子育てのことに限らず日常生活のことには何でも関心をもって来ています。これから今の私の気持ちは小出しにしてゆっくりじっくり理解してもらいたいな。

地域に上手くとけ込んで・・・

情報交換できる場

かるがもの会

「一人で悩まないで」
ここは子育てリラックスルーム

一歩そのお部屋に足を踏み入れると子ども達の元気に走り回る姿やお母さん達の楽しそうな様子に思わず顔もほころびます。ここは子育て支援ボランティアグループのかるがものおへや

● まずスタッフの方にお話しを聞いてみました

かるがもの会は、社会福祉協議会が主催する「子育てアドバイザー養成講座」の修了者で結成した子育て支援のグループです。家に閉じこもりがちになるお母さんや子ども達にここに来てもらって友だちをつくりリラックスした時間を過ごしてもらいたい、一人ぼっちの育児をなくすことも目的のひとつになっています。

● つぎにお母さん達のお話しも・・・

私達は日頃の子育てや近所付き合いなどでストレスがたまりがちになります。ここに来て同じ年頃の子どもの持つお母さん達と話すことで安心でき、ホッとした気持ちが持てます。子育てに関する悩みなどもスタッフの人に相談したり気軽に色々なアドバイスを受けることもあります。

“子育ては自分一人じゃない”という気持ちが持てるんです。そう話しながら絶えず子どもの様子に気を配っているお母さんの表情がとてもおだやかなのが印象的でした。



かるがものおへやは
ここで開催しています

● 生駒セイセイビル

毎週火曜日 10:00~11:30

● 南コミュニティセンター せせらぎ

第1, 第3 (火) 10:00~11:30

● 北コミュニティセンター I STAはばたき

第2, 第4 (金) 10:00~11:30

お問合せは
生駒市社会福祉協議会 TEL75-0234

スタッフの方もそんなお母さんや子ども達に温かいまなざしを送りながら「何よりも嬉しいことは、子どもの成長をお母さんと一緒に見守ることができ、楽しかったと言ってもらえる時なんです」と、目を細めておられました。

育児サークル

なかまを集めて自主的に活動しているサークルもあります。子ども達にとっても、おとうさん・おかあさんにとっても有意義な交流の場となっています。

*表紙のマップをごらんください。

生駒市では子どもと一緒に出かけ、友達と色々な話をしたり情報交換ができる場がドンドン増えてきています。育児をサポートする制度もでき始めています。自分がしんどくならないように、家族や地域と一緒に子育てしましょう。

育
児
を
サ
ポ
ー
ト

いこまファミリー・サポート・センター

ファミリー・サポート・センターって？

「子どもを預けたい人」と「子育てのお手伝いができる人」が会員となって、一時的な子どものお世話を有償のボランティアで行う組織です。



依頼会員
(子どもを預けたい人)

私は何か資格を取り、女性として自立を目指そうとしていた時にファミリーサポートの存在を知りました。子育てまっ最中である私の心の支えとなったのは言うまでもありません。

今頃は資格も取れてもっと輝いている頃かな？
同じ女性として心からのエールを送ります。

サポートセンターから



援助会員
(子育てのお手伝い
ができる人)

私自身、実家が離れていて困った経験があり少しでもお役に立てればナァの気持ちから会員になりました。お預かりしている子どもさんと触れ合う中で、新鮮な驚きや発見があり、それが楽しみでもあります。

●お問合せは

生駒市社会福祉協議会 生駒セイセイビル4F
いこまファミリー・サポート・センター
TEL 73-5552
月～金/午前8:30～午後5:00

電話相談

受付時間 午前8:30～午後5:00 TEL 74-1111 (健康課/内線754～756)
育児や健康に関するご相談に保健師・看護師・栄養士が応じます。

たまには子どもを預けて外出を！

一日中子どもと向かいあっていると世界が小さくなってしまい、ついイライラして些細なことにまでハラをたててしまいます。子どもをみてもらえたら、タイミングをみつけて出来るだけ外出しましょう。長時間子どもから離れるのが無理な場合は近くのティールームでお茶を飲むだけでも…。少しでも自分の時間を持つことによってフレッシュな気持ちになり余裕が出てきます

子どもが生まれ家族がふえるとともにいろいろなことがあります。せつかく縁あって1つのファミリーになったのですから生涯家族が幸せに暮せるよう守っていかねばなりません。赤ちゃんの安らかな寝顔やその笑顔をいつまでも忘れないで！どのようなときでも相手を「どれくらい大切に思っているか」ということを恥ずかしがらずに言葉でも態度でも表すことです。そしてそれを素直に温かく受けとめ、お互いにささえあっていることを認識することが大切です。家族仲良く…子育てはすべてそこから生まれると思います。

「日本女性会議2002あおもり」派遣レポート

生駒市では、女性問題の解決と男女共同参画社会の実現を目指して、生駒市女性行動計画「女と男YOU&Iプラン」に基づき事業を展開しています。その一環としてリーダーづくりのため、国内研修に参加する市民を公募し、7名の方々を「日本女性会議2002あおもり」に派遣しました。2002年10月4日・5日の2日間、青森県青森市文化会館・ぱるプラザ青森等で開催され、「私は私を大切に思うのと同じ重さであなたを大切に思う」のテーマで行われ、会場は人々の熱気と活気にあふれていました。

記念講演

「男女共同参画社会基本法 ～ジェンダーからの解放 社会システムの再構築を～」
大沢 真理(東京大学教授)

「平等・平和 ～地球市民としての私たち～」
辛 淑玉(人材育成コンサルタント)

全体会

「平等、開発、平和 ～より豊かな生き方を求めて～」
「大きなお世話か？ フェミニズムを次の世代に手渡す」

分科会

1. 労働
2. 高齢社会
3. 個人で生きられる社会
4. 男性
5. ドメスティック・バイオレンス
6. 農山漁村
7. 政策決定への女性参画
8. メディア
9. アジアの女性
10. リプロダクティブヘルス・ライツ

ワークショップ

11. 大昔の女性たち
12. 学校教育
13. セクシュアリティ

吉村 淑子さん

第5分科会は「DV」でシェルターについてパネルディスカッションが行われました。シェルターとはDV被害者の「一時保護」の場のことです。DV法が施行され、DVは人権侵害であり犯罪であると認められ、シェルターの役割が注目されるようになりました。民間シェルターは財源不足、スタッフ不足なのです。行政も資金面で公的支援が求められています。実際に役立つ相談や支援機関を必要とされ、そのためには弁護士、フェミニストカウンセラー、精神科医等専門のスタッフが求められています。シェルターは都市部に集中し、地方都市に少ないのが現状です。今後は草の根的にシェルターが出来ることが望まれますが、すぐ立ち上げるのは容易ではありません。生駒市でもまず支援グループが出来、DV被害者の相談機関の場が出来ることを強く望みます。

池田 千夏さん

参加するまでは、きっと口のたつバリバリの女性たちが来ていて、私なんて通用するのかしら...と不安だったけれど、心を元気で一杯にして帰ってきました。私はワークショップの分科会に参加しました。家事・育児・介護を一手に引受けている女性もつらい。リストラの不安やサービス残業に耐えて一人で家族を養う責任を負った、男性もつらい。家計もリスク分散型へ、家事も男女どちらもが主役に。元気に楽しく生きるために、できることから・できる範囲で取り組みましょう！



野口 瑛子さん

青森で「日本女性会議」が開かれることを広報で知り申し込みました。自分が高齢者になりつつあるとの自覚から、分科会は「高齢社会」を選びました。それは、上野千鶴子さんが話されると知ったからです。そういう折り、かかりつけの医院の待合室で「婦人公論」の中に、上野さんの文章を拝見。縁というものは繋がるものだ、と思いました。そして青森では「分科会」でも次の日の「全体会」でも上野さんのお話を聞いたのです。

山崎 むつみさん

「ねぶたの里で交流会」

川のせせらぎを聞きながら幻想的な木々の間を通り抜けると暗闇の中に提灯を持ったねぶた衣装の人々が我々を出迎えた。津軽三味線とねぶた囃子に誘われて日本各地から集まってくる。「わい、めじゃ。ねぶたの里でかだるべし。」こんなにもたくさんの女性が『同じ気持ち』で集うことに再度感激する。ドイツのカレンバッハさんの白いつなぎ服に次々自分の名前を書いていく。ラッセラー、ラッセラーと参加者全員が跳ね、心が一つになった。

生駒市女性センターからのインフォメーション

生駒市女性センターでは、男女がそれぞれの能力を十分発揮できる男女共同参画社会の実現を目指し、男女がともに対等な構成員として地域社会等へ参画、活動ができるよう支援していくことを目的に、様々な講座を開催しています。そして、これまでの講座修了生の中からいくつかのグループが立ち上がり、女性センターを拠点に活発な活動が行われています。また、14年度には、情報発信トレーニング講座（女性学セミナーアドバンスコース）の修了生による**Q情報発信基地**が発足しました。今後の活動にご期待ください。

Q情報発信基地



情報発信トレーニング講座修了生の会

楽々クッキング



いい男楽々クッキングスタジオ修了生の会
男性の生活の自立を目的に発足しました。毎月第2土曜日に集まって様々な料理に挑戦しどんどんレパートリーを増やしています。またそれが仲間づくりにもつながっています。

あゆみの会



託児ボランティア養成講座修了生の会
幼児を持つお母さん達の社会参加のお手伝いを目的として発足しました。女性センターの講座や市主催の講演会等で託児を担っています。

アサーション勉強会



自己表現修了生の会
自分も相手も大切にしながら、意見を率直にすなおに表現するコミュニケーション方法を勉強しています。毎月第4月曜日に講師の先生を迎え、楽しく学んでいます。

郵便はがき

630-0288

50円切手を貼って
投函して下さい。

生駒市東新町8-38

生駒市教育委員会女性青少年課

女性情報誌

『*ViVid You&I*』係行

ふりがな

お名前 _____ 年齢 _____ 歳

〒

ご住所 _____

TEL () _____

匿名希望 有(ペンネーム) _____) ・ 無

この情報誌をどちらで入手されましたか。

編集後記

輝いている女性にたくさん出会えたこの1年。私の人生の中で大切な1ページになりました。10年日記をつけ始めました。私も輝く女性へ10年計画！【池田】

モノとお金の時代は過ぎ去り21世紀は人と人とのコミュニケーションがポイントとか。ステキなスタッフの皆さんとの編集会議はまさにバッチリ！アクティブな1年に感謝です。【西田】

‘子育ては自分育て’をかみしめながら、これからの生活に生かしていきたいです。私もまだまだ発育途中(?) 肩の力を抜いてがんばります。【山脇】

子育ては驚きと発見だらけ。子どもを通じての出会いもいっぱい。これからも母親であることを楽しみつつ、なかまをどんどん増やしたいです。【吉田】

生駒市女性情報誌・第12号

発行 = 生駒市・生駒市教育委員会

編集 = 生駒市教育委員会女性青少年課

(〒630-0288 生駒市東新町8-38 ☎0743-74-1111内線673)

e-mail (jyosei@city.ikoma.nara.jp)

発行日 = 平成15年(2003年)4月

(この情報誌は再生紙を使用しています)